

沼津市公共施設マネジメント計画策定審議会 委員委嘱式及び平成27年度第1回審議会

【概要版】

日 時：平成27年12月22日（火） 午後1時20分～午後3時30分

会 場：沼津市庁舎4階 危機管理センター

出席者：5名 ※敬称略 五十音順

加藤 訓久 沼津商工会議所青年部 会長、株式会社勢和警備保障 代表取締役

岸 昭雄 静岡県立大学経営情報学部 講師

榊原 昭雄 沼津市連合自治会 会長

鈴木 素子 鈴木素子税理士事務所 所長

山本 康友 首都大学東京都市環境学部 客員教授

(ご欠席)日詰 一幸 静岡大学人文社会学部 教授

事務局：3名

山田 昭裕 沼津市財務部資産活用課 課長

矢嶋竜一郎 沼津市財務部資産活用課 公共施設再配置係長

筑城 浩介 沼津市財務部資産活用課 公共施設再配置係

計画策定支援業者：2名

足立 文 株式会社日本経済研究所公共マネジメント部 部長

小林 純子 株式会社日本経済研究所公共マネジメント部 主任研究員

傍聴者：2名

<委員委嘱式>

1 委嘱状交付

2 市長挨拶

<審議会>

開 会

事務局紹介

計画策定支援業者紹介

委員自己紹介

会長・副会長の互選

- ・委員互選により、会長に山本康友氏、副会長に日詰一幸氏を選任。

議事 1 沼津市の公共施設の現状について

事務局より「沼津市の公共施設の現状について」について説明。

委員からの主な発言は以下のとおり。

- ・過去の市の成り立ちやいろいろな経緯があって今の施設配置になっていると思うが、各地区の人口当たりの施設面積が分かれば教えてほしい。
- ・各施設の利用率についても分かれば教えてほしい。
- ・施設の維持更新費について、過去3年間の実績が年間26億円程度なのに対し、今後30年間の推計が年間53億円程度と見込まれている。この推計だけを見れば全ての施設を残すことは困難だろうと思う。
- ・財政予測で、義務的経費の増加が見込まれる中で、施設にかかるコスト縮減や受益者負担の増加など検討しなければならない。各施設の維持管理・運営にかかるコスト、使用料等の収入を提示してほしい。
- ・インフラの情報がないが、今後どのように整理していくのか。
(事務局より、インフラについては、本計画と並行して整備を進めている固定資産台帳より総量を把握し、既計画との整合を図りながら方向性を検討したいと回答。)
- ・インフラの現状をみると、長寿命化を図るだけでも莫大な費用がかかり、建物施設よりも影響が大きいかもしれない。
- ・特に橋りょう数が多く、高速道路や鉄道等をまたがっているような重要橋りょうが120橋あるというのは驚いた。これらが老朽化して使用できなくなると、市に与える影響は大きい。
- ・全てのインフラを現状維持する前提であれば、いかにコストを抑えて長寿命化させるかという技術的な問題だけになる。しかし、まずは、交通計画や防災計画等でインフラがどのように位置づけられているのか調査した上で議論を始めるべきだと考える。

議事 2 公共施設マネジメントの基本的な考え方（柱）について

事務局より沼津市公共施設マネジメント計画の柱（想定）について説明。

合わせて、兵庫県伊丹市と東京都目黒区の事例を紹介。

委員からの主な発言は以下のとおり。

- ・2団体の事例を見ると、施設総量削減の目標値を設定しているが、沼津市も目標を設定するのか。また、設定する場合、いつ公表するのか。
(事務局より、次回の審議会以案を示したいと説明。)
- ・総量削減目標について、例示された伊丹市は10%、目黒区は15%と全国的にみて小さい数字となっている。例えば高松市は2つの案があって、1つ目は50年間で44.5%削減する、2つ目は15年間で31.6%削減するという非常に厳しい数字を算出している。
- ・一般的に、人口予測に基づき、その減少率に合わせ、公共施設を削減する考え方はある。
- ・「量の最適化」を図ると、それに伴う建設・維持関連経費が抑えられて「コストの最適化」につながると思うが、あえて別にしているのか。
(事務局より、コスト削減とは、総量削減による建設・維持関連経費の削減ということだ

けでなく、個々の施設運営のあり方を見直すことで運営コストを削減するといった視点もあるので、あえて別にしていると回答。)

- ・「量の最適化」について、現に稼働率の低い施設や未利用施設があるならば、既に量が過大であると考えられる。逆に、新興住宅地等で人口が増加している地区があるならば、量が不足している可能性もある。何をもって最適とするか議論して定義しなければならないと思う。
- ・コストや利用に関する指標を作り、誰にでも分かりやすく施設評価すべき。
- ・人口や産業構成が同じような団体（静岡県内の近隣自治体や全国の類似団体）と比較して議論すればよいのでは。
- ・提示された4つの視点のうち何に重点を置くのか、沼津市にとって何を重要視すべきか議論し、委員で共有することが大切だと思う。
- ・単純に人口減少の割合で公共施設を減らすのではなく、住民が満足して、安心して生活するためにはどうすればいいか考えたい。そのためには、もう少し他事例を集めた中で議論して検討したい。
- ・公共施設マネジメントの考え方について、例示された目黒区の視点の1～4に沼津市独自の視点を追加すればオーソライズされると思う。
- ・今あるサービスを全て維持する必要はないと思う。既に人口動態の変化は起こっており、地区によって公共施設の過不足は出ているはずなので、この変化に合わせたサービス水準にすることが公共施設マネジメントの観点から望ましいと思う。
- ・人口変遷により統廃合すべき施設もあるし、どうしても残さなければならない施設もある。今後、多機能化や複合化など、色々な可能性の中で適正配置を検討していくべき。

議事3 市民アンケートについて

事務局より、市民アンケートの目的、実施時期、内容等について説明。

委員からの主な発言は以下のとおり。

- ・公共施設マネジメントの方針を作る上で大変参考になると思う。
- ・地域や年代によって回収率が異なるので、意見の偏りが出ないようにしてほしい。
(事務局より、沼津市が毎年実施している市民意識調査の回答率を参考にして、年代ごとに発送数を設定しようと考えている。)
- ・年代だけでなく、地域でも偏ることのないようにしてほしい。
- ・発送数が妥当なものか分からない。
(計画策定支援業者より、仮に回収率が低かったとしても、分析を行う地域や年代などにグループ分けした時に100サンプル以上あれば、統計学的に傾向が読み取れると回答。)
- ・計画策定支援業者のノウハウを借り、分析できるよう発送してほしい。
- ・一般市民から無作為抽出してアンケートするので、「公共施設マネジメント」という言葉の意味や、「公共施設」はどこまでの範囲を言っているのか補足説明が必要だと思う。

議事４ 今後の審議会の進め方について

事務局より公共施設マネジメント計画策定スケジュール（案）に基づき説明。

委員からの主な発言は以下のとおり。

- ・総務省へ来年度末までに計画策定の報告を行うために、このようなスケジュールになっているということでしょうか。
- ・インフラの予算計画についても明らかにするのか。

（事務局より、インフラについては、橋りょうのように既に長寿命化計画を策定して維持管理を始めていることから分かるように、建物施設のように将来コストを算出して削減目標等を数値化して統廃合するのではなく、適正に維持管理するための方針を示したいと考えていると回答。）